

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

内容報告書

団体名：インターカルト日本語学校

1. 事業の概要

事業名称	生活者としての外国人と共に支え合うための日本語教育プロジェクトⅣ
事業の目的	日本語教育を専門とする日本語学校における「場所」「教材」「日本語教育の専門家」という特性を生かし、行政、近隣住民とつながりながら、地域に住む外国人が社会参加できるように必要な日本語、地域の情報が学べる日本語教室の設置、外国人住民が自己表現のできる外国人主導のセミナーの定期的な開催を目指す。また、「人材の養成・育成」においては、複数年、事業の受託の経験から、地域のニーズを生かした内容での講座の開催、若手の日本語支援者の育成のための講座など、次世代を見据えた研修の実施も目指す。「学習教材」においては、日本語教育の専門家の能力を生かし、生活者としての外国人のニーズに合う「学習教材」プログラムを作成していく。台東区には国際交流協会など生活する外国人のための機関がないため、当校がそれに近い形で、生活する外国人、近隣住民が集える場所作りを目指したい。 企画にあたっては、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案、ガイドブック、教材例集、能力評価、指導力評価を参考にし、地域に根ざした独自の、効果的・実践的なプログラムの完成を目指す。
日本語教育活動に関する地域の 実情・課題	1. 実情 ①地域の外国人の割合と国籍 人口19万1千人に対し外国人登録が1万4千人。外国人比率約7%、14人に1人が外国人。毎年外国人の人口は増えている。 20代から40代が多く、男女比率はほぼ同じ。 ②国籍別の状況 韓国、中国、フィリピン、インドの順に多い。韓国人、中国人は料理店、フィリピン人、中国人は婚姻、インド人は御徒町駅周辺に多くある宝石商である割合が高い。高学歴である。また、夫婦子供の家族で暮らしているインド人が多く、夫の日本語力は高く、生活で困ることは多くないようである。韓国人とインド人にはそれぞれ独自のコミュニティがある。 ③現状における問題点とその対応 昨年、台東区交流促進課の係長と「在住外国人に対しての台東区の取り組み」について話す機会があった。台東区は各課がその課に関する取り組みを行っている縦社会で、台東区としての「多文化共生の取り組み」をするに至っていない現状がある。日本語教室に関しても、来日間もない外国人対象になっているため、さらに日本語取得を目指す外国人の学ばない。ボランティアのクラスもあるが、他の自治体と比較すると少ないのが現状である。また、時間帯が合わなかったり、自分の学ばないことが学べなかったり、継続は難しいようである。台東区に暮らす中国人は中華料理店を営んでいる、店で働いている人が多く、長年日本に住んでいても日本語が話せない中国人が多い。忙しい生活の中、日本語の習得する時間がないようである。また、日本人の間に生まれた子供をもつ中国人妻は、子どもが成長すると、お母さんの日本語に対して、指摘するようになるようだが、日本語を学ぶ環境がないため、改善できないことが悩みと聞く。 子供を持つ韓国、中国の母親は母国の教育の高さに対し日本の教育は遅れていると感じており、子どもの将来に不安を持っているようだが、進学などに関する日本の学校事情を理解するのは、難しいようだ。インド人は日本人と接点を持つ機会がほとんどない。子供もインドのインターナショナルスクールに通わせている。インド人のコミュニティの中で生活をしている。そのため、台東区の情報を持ち合わせないのが現状である。多くの問題点がありながら、これら外国人に対する体制が十分ではない現状である。 ※以上は、平成21年度から27年度(継続中)にわたって行ってきた文化庁委嘱事業である講座開講の経験から得た現在の問題点及び地域の状況である。 2. 課題 1) 台東区の現状に合った日本語教室及び支援体制の整備 2) 日本人と接点のない地域社会から孤立した外国人の対策
事業内容の概要	1)について 台東区の交流促進課が唯一日本語教室、日本語支援のボランティアと関わっている課だが、台東区としての多文化共生を進める課がないことなど含め、他の団体と協力体制を作るのは、現時点では難しいとの回答であった。交流促進課とは関わりを持ちながら、台東区のボランティア団体との情報交換を含め、日本語支援の在り方を考える場を設け、その考え方を台東区に伝えていく。在住外国人の求めている教室について、台東区には何が必要なのかなどを理解してもらい、一歩ずつ積み重ねて理解を図る。「人材の養成・育成」の当校企画のボランティアのための講座に台東区のボランティアの方に多く参加してもらい、レベルの底上げを図る。このようなことから、引き続き台東区との協力を模索しながら、協力できるところからの体制を作っていく。現在、東京都生活局が主となって多文化共生の指針を作成している段階で、当校にもヒヤリング調査があった。また、東京都生活局からの委託も今年度で3年になる。東京都に協力を仰ぎながら、台東区とのつながりを作っていくことも来年度は考えていきたい。 2)について 学習者には日本語教室を通して、日本語だけではなく日本の文化、習慣を理解してもらう。また、近隣の人たちを招いて、学習者主体のセミナーやイベントを開催し、学習者の国の文化や習慣の紹介など近隣の人たちと接点を持つ機会を主催者側が企画する。当校のある地域は商店街や飲食店が多くあり、商店街の会長、副会長とのつながりを生かし、近隣への告知の協力をお願いする。 *複数年、事業の受託したことにより、東京都、台東区、足立区、さいたま市、横浜市、松戸市からのボランティア講座の委託を受け、今年度新たに我孫子市からの委託を受ける。
事業の実施期間	平成28年5月1日～平成29年3月20日 (11 か月間)

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	西原鈴子	国際交流基金
2	神吉宇一	武蔵野大学大学院言語文化研究科
3	秋本邦雄	佐竹商店街振興組合
4	砂原利彦	台東区佐竹・竹町南町会
5	加藤早苗	インターカルト日本語学校 文化庁日本語教育小委員会
6	谷口真理	コーディネーター インターカルト日本語学校
7	田栗春菜	コーディネーター インターカルト日本語学校
8		
9		
10		



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年4月25日 12:00~14:00	2時間	インターカルト日本語学校	加藤早苗、谷口真里、田栗春菜	平成27年度の反省を踏まえ、平成28年度事業実施計画を検討した。
2	平成28年10月13日 13:30~14:30	1時間	インターカルト日本語学校	西原鈴子、加藤早苗、谷口真里、田栗春菜	課題となっている、地域リソースを活用する具体的方法の検討を行った。
3	平成29年3月17日 14:00~16:00	2時間	インターカルト日本語学校	加藤早苗、谷口真里、田栗春菜	一年間の事業を総括し、今後本校で取り組む課題及び方向性に関する議論を行った。
4					

(2)事業の実施体制

・コーディネーターの役割として、事業全般が円滑に進むために、各事業の計画から、内容の決定、円滑に事業が進んでいるかなど、担当の講師と密に連絡を取りながら、事業に参加しながら常に状況を把握する。状況によっては、改善にあたる。日本語教室運営にあたっては、各回ごとに反省会を持ち、学習者の状況を把握、テーマの内容の反省など行い、次の教室につなげる。人材の育成・研修においては、現在、地域の現場で活動する日本語支援者が求める内容、活動に役立つ内容を取り入れた講座を企画する。そのために現場の方々のニーズ分析を行う。

・日本語の指導者の授業運営の役割として、授業内容の計画から携わり、1年通しての授業内容を決める。担当者が毎回の内容のフローを作成し、授業前に他の指導者に、フローの周知を行う。学習者の担当をあらかじめ決めて、責任を持って指導にあたる。学習者のポートフォリオの作成をする。また、テーマについての教材を作成する。指導者用だけではなくて、学習者にとって分かりやすく、自宅でも学習できる教材を作成する。

(3)地域における連携体制

- ・台東区教育委員会 教育支援課との連携。外国人保護者への日本語教室の通知。
- ・子供を持つ外国人のお母さんと関わりのある台東区保健所の保健師さんなどに、日本語教室の通知。
- ・台東区交流促進課との連携 ボランティア団体への通知。
- ・台東区近隣の商店街、町内会との連携。
- ・近隣の自治体へ、人材研修・外国人主体のセミナー・イベントの通知依頼。

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称：ともに生活するための日本語教室(台東区)】									
目的・目標	地域との関係が希薄な外国人、地域との関係がありながら日本人の社会に溶け込めない外国人が地域社会と密接につながりを持ち、その中で地域の一員として生活し、日本人及び他の外国人たちと共に日本社会で生きていくために必要な日本語能力を養う。また、日本の文化・社会・習慣の体験を通してその理解を深め、地域社会に参加し、地域での生活を円滑に行えるようにする。また、主催者側が地域の日本人とつながりを作るための機会を定期的に作ることで、地域の住民である意識を芽生えさせる。 当日本語教室をサポートする立場となる者についても、対象外国人の目標達成に向けての支援をすることによって各々にとっての副次的な成果が表れるようにするものとする。 1)すでに地域での生活を行っている外国人は、地域の日本人と共に取組に参画することによりさらに日本社会及び日本人との結びつきを密接にする。そして教室、ひいては地域における自己の発信によって自分自身を日本社会に根付かせるきっかけを作り、生活をより豊かなで実り多いものにする。 2)地域に住む日本人は、日本語教室に参加することにより、地域に住む外国人の存在を理解することで、外国人と共に支え合うという意識を育み、同じ地で生活する存在であることを理解する。								
対象	台東区、または近隣に住む外国人(日本語学習歴は問わない)								
取組の内容	・学習者のニーズ分析を行い、学習者が何を必要としているかを、指導員が共有し、学習者一人ひとりにあったプログラムを作成する。 ・「標準的カリキュラム案」から抽出した対象学習者に必要と思われる生活上の行為が「できるようになること(can-do)をプログラムの柱とし、教室内での対指導者及び学習者間による練習活動のみならず、教室外における実地体験も十分に取り入れる。 ・カリキュラム案には取り上げられていない、特に母親が必要とする子育てや子どもが通う学校とのやりとりに関わる行為、また仕事を上で必要な行為など必要に応じて取り上げる。 ・教室内及び教室外での活動には、すでに地域で生活している外国人、及び地域に住む日本人にも積極的に参加を促す。日本人は必ずしも日本語指導ボランティアを志望することを前提とせず、外国人と共に地域に行き共に学ぶ存在としてプログラムに参加し、教室内外で外国人と共に体験した対話による相互理解がその後の地域での共生につながるような参加の形を企画したい。企画に関しては、学習者とともに企画し、積極的な参加を促す。 ・前年度の反省を活かし、新たに近隣に住む日本人の補助者としての参加を募る。また、現在行っている課外活動(防災館・スーパー・ドラッグストア)の内容を見直し、実際に近隣住民と協働できる機会を作る。								
実施期間	平成28年 5 月 12 日～平成 29 年 3 月 16 日				曜日・時間帯		木曜日(10:30 ～ 12:00)		
開催回数	全 54 時間 (1回1.5 時間×34回+ 課外活動3時間)				開催場所		インターカルト日本語学校		
参加者	総数 32 人 (日本語学習者 21 人、指導者・支援者 11 人など)				使用した教材・リソース		「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案、平成27年度に本取組で作成した動画教材、『WEEKLY J』、『いっぴにほんごさんぽ』、各テーマに応じてWEBサイトの活用		
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	1					1			
スリランカ(1名)、インド(18名)									
カリキュラム案活用	・「生活上の行為の事例一覧」を利用して行ったニーズ調査を基に、学習項目(Cando)一覧を作成し、学習者はそこから自ら学習する内容を選択して活動を行った。 ・学習者のポートフォリオとして、教室開始時に「学習目的」「目標」を、終了時に「達成度」を記入し、学習者が自らの学習を客観的に評価できるようにした。								
日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要		指導者名	補助者名
1	平成28年5月12日 (木) 10:30～12:00	1.5	インターカルト日本語学校	14	自己紹介	・「学習目的」「学習目標」を記入する。 ・自分の出身や家族、好きなこと等に触れながら自己紹介をする。		有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
2	平成28年5月19日 (木) 10:30～12:00	1.5	インターカルト日本語学校	11	買い物①	よく行くスーパーの情報交換をしたり、チラシから情報を得る。		有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
3	平成28年5月26日 (木) 10:30～12:00	1.5	インターカルト日本語学校	10	買い物② 【課外活動:スーパー】	課外活動としてスーパーへ実際に行く。 ①商品について店員に尋ねる。 ②食品表示を見て、食べられる/食べられないものに関して話す。		有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
4	平成28年6月2日(木) 10:30～12:00	1.5	インターカルト日本語学校	14	買い物③	デパート等で試着する際の会話ができるようになる。		有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
5	平成28年6月9日(木) 10:30～12:00	1.5	インターカルト日本語学校	12	季節の話(1)	テーマ:「梅雨の対策」 どんな対策をしているか話し、便利な対策グッズを紹介し合う。		有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)

6	平成28年6月16日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	15	季節の話(2)	テーマ:「夏野菜」 各国の夏に食べる野菜や、それを使 った料理について話す。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
7	平成28年6月23日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	15	防災①	災害発生時の指示が理解できるよう になる。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
8	平成28年6月30日 (木) 10:30~13:30	3	インターカル ト日本語学校	10	防災② 【課外活動:防災館】	課外活動として本所防災館へ行き、 映像や地震体験などを通して「防災」 について考える。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美
9	平成28年7月7日(木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	13	防災③ (季節の話)	非常持出袋の準備について確認し、 今後自分が必要なものについて話し 合う。 七夕の短冊に願い事を書く。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美
10	平成28年7月14日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	12	防災④	自分や家族の避難場所を確認し、災 害発生時に取るべき行動について考 える。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美
11	平成28年9月1日(木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	10	季節の話(3)	テーマ:「日本の四季」 日本の四季とそれぞれの季節に関す る印象を話、自国の季節と比較する。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
12	平成28年9月8日(木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	15	季節の話(4)	テーマ:「日本の祭」 日本及び東京の有名な祭の日程を確 認し、祭に参加した経験について話 す。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
13	平成28年9月15日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	13	季節の話(5)	テーマ:「お月見」 日本のお月見を題材に、各国の「月」 に関する行事について話す。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
14	平成28年9月29日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	13	季節の話(6)	テーマ:「食欲の秋」 秋に旬を迎える食べ物に関して話し、 調理法を紹介し合う。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
15	平成28年10月6日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	12	自転車講習	自転車に乗る際の注意点について話 し、罰則などを確認する。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
16	平成28年10月13日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	10	季節の話(8)	テーマ:「運動会」 日本の運動会の文化について話し、 各国の学校行事について聞き合う。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
17	平成28年10月20日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	11	季節の話(9)	テーマ:「秋の花」 秋に見られる花について話し、花の名 所の情報を交換する。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
18	平成28年10月27日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	11	季節の話(10)	テーマ:「日本のハロウィーン」 昨今の日本でのハロウィーン文化を 紹介し、各国での過ごし方について話 す。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
19	平成28年11月10日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	15	季節の話(11)	テーマ:「紅葉」 紅葉スポットを紹介し合い、その経験 について話す。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
20	平成28年11月17日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	15	季節の話(12)	テーマ:「カレンダー」 カレンダーの日付を改めて復習し、誕 生日やその過ごし方について話す。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美
21	平成28年11月24日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	13	季節の話(13)	テーマ:「温泉」 日本の温泉の入り方について話し、 自らの経験について話す。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
22	平成28年12月1日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	11	病院①	病院での受付、診察を受ける際の症 状の説明ができるようになる。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)

23	平成28年12月8日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	11	病院② 【ゲストスピーカー: 三井記念病院より】	三井記念病院医事課よりゲストス ピーカーを招き、診療の際の手続き や注意事項に関して話を聞く。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
24	平成28年12月15日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	12	くすり①	薬局で用法・用量の説明が理解でき るようになる。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
25	平成28年12月22日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	12	季節の話(14)	テーマ:「年賀状」 教室内の参加者同士で年賀状を書き 合う。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
26	平成29年1月12日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	11	季節の話(15)	テーマ:「新年の抱負」 書初めを行い、新年の抱負について 語る。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
27	平成29年1月19日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	10	季節の話(16)	テーマ:「受験」 日本の受験に関して知り、自らの子 供の進路に関する情報交換をする。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
28	平成29年1月26日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	10	季節の話(17)	テーマ:「防寒対策」 どんな防寒対策をしているか聞き、便 利グッズをオススメし合う。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
29	平成29年2月2日(木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	15	季節の話(18)	テーマ:「節分」 節分の意義や風習について知り、豆 まきを行う。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
30	平成29年2月9日(木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	9	季節の話(19)	テーマ:「バレンタインデー」 過去のバレンタインデーの経験を話 す。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
31	平成29年2月16日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	13	季節の話(20)	テーマ:「インフルエンザ対策」 時期に応じた感染症予防に関して考 える。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
32	平成29年2月23日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	13	季節の話(21)	テーマ:「花粉症」 花粉症の予防について情報交換し、 自らのアレルギーや体質などについ て話す。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
33	平成29年3月2日(木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	11	季節の話(22)	テーマ:「ひな祭り」 ひな祭りの過ごし方について話し、各 国の女兒の行事に関して聞き合う。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
34	平成29年3月9日(木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	14	季節の話(23)	テーマ:「卒業式」 各学校(小・中・高・大)での卒業式に 関して話し、各国の卒業式について 紹介し合う。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)
35	平成29年3月16日 (木) 10:30~12:00	1.5	インターカル ト日本語学校	11	修了式	「学習の達成度」に関して記入を行 い、1年間の学習の振り返りを行う。	有田玲子 長崎順子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 千葉洋美 (保育)

(1) 特徴的な活動風景（2～3回分）

○取組事例①

【第8回 2016年6月30日】

課外活動として墨田区の本所防災館へ行き、都市型水害と地震の体験を行った。

第7回～10回は連続して「防災」に関する活動を行ったが、昨年度「防災館に行った後にもう一度学習したかった」との学習者の声があったため、今年度は「災害発生時の指示の理解」→「防災館（課外活動）」→「非常時の備え」→「避難場所の確認」という流れで全4回の活動を組んだ。

- ・参加者からは、「実際に地震体験ができてよかった。怖さを知った。」「自分に必要な準備をもう一度確認しようと思った。」「今まで備えが必要だと思ったことがなかったが、調べて備えようと思った。」といった感想が出た。
- ・連続した活動であったこと、防災館での体験を経てモチベーションが高かったことから、この4回の活動は通常以上に熱心に取り組んでいる学習者が多かった。
- ・今回の4回の活動は、主に地震に対する防災を扱ったので、教室内の活動の際地震に限らず火事や水害に関する防災をもう少し取り上げても良かった。



【第23回 2016年12月8日】

三井記念病院（本校より徒歩5分）医事課より2名来校し、以下の内容に関して聞き・話す機会を設けた。

- ①医療機関の種類（心療科、紹介状の有無）
- ②外来受診の流れ
- ③知っておくといふこと（東京都医療機関案内サービス『ひまわり』など）
- ④病院からのお願い

・元々教室参加者は、特定の医院にかかることが多く（英語対応可能であるため）、総合病院で受診することがないと言っていたが、①医療機関の種類や紹介状、受診の予約に関しては初めて知ることが多いようだった。

・最も質問が多かったのは、東京都医療機関案内サービス『ひまわり』に関してであった。「何語に対応しているのか」「対応している時間帯はいつか」「その他、救急に関する情報が得られるのはどこか」等の質問が出た。

・今回の活動を行うにあたり、事前の打ち合わせで「学習者の理解できる表現で、必要な内容を絞って伝える」という点に留意して準備を行った。医事課のお2人にはやさしい日本語で説明いただいたが、「どういった日本語が通じる/通じないのかということ」が、肌で感じられてよかった。今後の病院内での外国人向けサービスに活かしたい」というコメントをいただいた。



(2) 目標の達成状況・成果 ※検証方法（アンケートや評価等）も含めて具体的に記載すること。

・今年度の受講者の特徴として、保育園・幼稚園就学前の幼児を連れてくる学習者が多かった。台東区内の教室の情報は、近隣に住む学習者内で徐々に共有されるようになってきたという傾向があるが、その中で、「子どもと一緒に参加可能な教室」としての需要が高まっていると感じた。そうした受講者からは「家で子育てをしていると息がつまるので、わずかでも自分の学習ができるこの時間が本当に貴重」という声が多くあがった。

・今年度は、指導者/補助者が毎回の活動記録を残すとともに、講座全体の学習の記録として、学習者は初回に「学習目標」、最終回に「達成度」を記入した。学習者自身が変化を視覚的に捉えることができ、指導者/補助者との振り返りがしやすかった。

・前年度の反省を活かし、行政と連携した活動内容の検討を行い、台東区保健サービス課と「区民検診」の周知や活用を目的とした活動に関する打合せを行ったものの、実施に至らなかった。実施時期が上手く調整できなかったことが要因である。そのため、以前より「外国人対応」に関してやり取りのあった三井記念病院と、医療機関受診に関する活動を実施することとなった。これに関しては、学習者の疑問に一つずつ応じることができて良かったが、当初の目的であった行政との連携が形にならなかったことが、反省点として残る。

(3) 今後の改善点について ※取組の内容や実施体制などについて改善すべき点を具体的に記載すること。

・上記の通り、行政との連携は今後も課題である。また、近隣の日本人住民の教室参加という点でも、数回の見学はあったものの、恒常的な実施には至らなかった。地域住民との接点を作り、相互に学び合える取り組み・きっかけ作りを今後も検討していく必要がある。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:地域の外国人と日本人が相互に学び合うための講座】									
目的・目標	主に、以下3点の人材育成を目標とする。								
	①台東区の本校近隣で、日本語学習ボランティア活動を行う人材のブラッシュアップ ②未だボランティア経験のない、大学生を中心とした若者世代のボランティア参加促進 ③外国人が主体となる場としてのセミナー ①に関しては、前年度までの経験・反省を活かし、地域のニーズ(学習者の特性や地域性など)に基づいた講座を設ける。 ②に関しては、未だ日本語学習ボランティア経験のない、社会人や大学生などの若者世代に対して、今後のボランティア参加を促進することを目的とした講座を実施する。具体的には、「日本における生活者としての外国人の現状」「外国人と共に 行う地域の企画作り」「やさしい日本語とは」を学ぶ内容を予定している。 ③に関しては、各国の子育ての違いをテーマに、生活者である外国人数名にスピーカーになってもらい、セミナーを行う。外国人が主体となり、日本人住民が聞き手になることで、外国人が地域に参画し、地域住民と相互に学び合える場を作することを目的とする。								
対象	日本語教室の指導員、地域での日本語指導者、日本語教師、国際交流に興味のある大学生、地域に住む外国人								
取組の内容	・カリキュラム案の概要及び活用法、対話型活動を学ぶ講座を開講する。 ・大学生などのボランティアを始めたい人向けの講座を開講する。 ・外国人がスピーカーになる「多文化子育てセミナー」を開く。								
実施期間	1.ブラッシュアップ講座 平成28年10月15 日～平成 28年12月17日 2.大学生対象講座 平成29年2月4日～平成 29年2月18日 3.子育てセミナー 平成29年3月9日				曜日・時間帯		土曜日(10:00 ～13:00) 木曜日(14:00 ～15:30)		
開催回数	全 31.5 時間 (1回3時間 ×10回、1回1.5 時間 ×1回)				開催場所		インターカルト日本語学校		
参加者	総数 50 人 (日本語学習者 9 人、指導者・支援者 41 人など)				使用した教材・リソース		・カリキュラム案教材例集 ・平成27年度に本取組で作成した動画教材(『台東区に住むお母さんのための日本語教材』)など		
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	①ブラッシュアップ講座:日本(21人)、中国(1人) ②大学生対象講座:日本(8人) ③子育てセミナー:インド(7人)、スリランカ(1人)、モンゴル(1人)、中国(1人)、日本(12人)								
カリキュラム案活用	①ブラッシュアップ講座にて、カリキュラム案の概要及び活用法を紹介した。主に「生活上の行為一覧」を使用し、教室活動案作成の参考にした。								
養成・研修の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師名	補助者名
1	平成28年10月15日 (土) 10:00～13:00	3	インターカルト日本語学校	21	「標準的カリキュラムを取り巻く日本語教育のイマ」	地域の日本語教育を必要とする社会的要因、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の現状を知る。		西原鈴子	
2	平成28年10月29日 (土) 10:00～13:00	3	インターカルト日本語学校	18	他の教室って、どんな活動をしているの?～インターカルト日本語学校における事例紹介～	・インターカルト日本語学校で開講している日本語教室の事例を紹介する。 ・台東区近郊で活動しているボランティア同士で情報を共有する。		田栗春菜	
3	平成28年11月12日 (土) 10:00～13:00	3	インターカルト日本語学校	14	「対話って何だろう?」～「教える」ではなく、「対話」の場に～	「対話」型の活動の意義について知り、実際に色々体験してみる。		深田みのり	
4	平成28年11月19日 (土) 10:00～13:00	3	インターカルト日本語学校	14	「初めての語学学習」～ゼロから学ぶという体験を通して感じることに～	初めて学ぶ言語の「挨拶」と「文字」の学習を通して学習者の気持ちを体感し、ゼロ初級向けの活動内容を作成する。		田栗春菜	
5	平成28年12月3日 (土) 10:00～13:00	3	インターカルト日本語学校	17	「明日から使えるテクニック」①～たくさん、楽しく～	文法項目や数字、教室活動の中で「勉強」になりがちなものをゲーム感覚で楽しく学べるテクニックを学ぶ。		齋藤美幸	
6	平成28年12月10日 (土) 10:00～13:00	3	インターカルト日本語学校	19	「明日から使えるテクニック」②～たくさん、楽しく～	・文法項目や数字、教室活動の中で「勉強」になりがちなものをゲーム感覚で楽しく学べるテクニックを学ぶ。 ・次週の演習の準備を行う。		齋藤美幸	
7	平成28年12月17日 (土) 10:00～13:00	3	インターカルト日本語学校	16	「実際にやってみよう!」～留学生との語らいをとおして見えてくるもの～	学習者とグループになって、各場面におけるスキットを作成し、実演する。その後フィードバックを行い、講座の総括を行う。		齋藤美幸	
8	平成29年2月4日(土) 10:00～13:00	3	インターカルト日本語学校	8	「未来に向けた地域づくりと日本語/外国語支援 ～未来の日本社会を展望し、外国人に対するさまざまな支援活動について考える～」	世界や日本の人口動態や外国人の在留資格、技能実習制度などから現在の日本社会を考え、「文化」と「異文化」についてディスカッションを行う。		神吉宇一	

9	平成29年2月11日 (土) 10:00~13:00	3	インターカル ト日本語学校	7	「外国人と日本人をつ なぐ、日本語ボランティ アの可能性」	ひらがなネット株式会社の事業内容や設 立に至るまでの過程、外国人スタッフの 話を通して、地域づくりのための「企画作 り」について学ぶ。	戸嶋浩子 吉澤弥重子	清水エド 羽上珠希
10	平成29年2月18日 (土) 10:00~13:00	3	インターカル ト日本語学校	7	「外国人とのコミュニ ケーション ～グローバルな視点 で『やさしい日本語』に ついて考えてみよう ～」	やさしい日本語のこれまでについて知り、 実際にやさしい日本語に変換する演習を 行う。	齋藤美幸	
11	平成29年3月9日(木) 14:00~15:30	1.5	インターカル ト日本語学校	21	INCUL ママ's café	・インドと日本の子育ての違いについてパ ネルディスカッションを行う。 ・グループワークを通して、各国の子育て 事情に関して情報交換する。	ルチ・グプタ 長崎順子	

(1) 特徴的な活動風景 (2～3回分)

○取組事例①

【ブラッシュアップ講座 第7回 2016年12月17日】

日本語学習を初めて間もない学習者を想定し、「生活場面での会話を、“楽しく”学ぶ活動」を組み立てる演習を行った。前週の第6回に、受講者は場面を一つ選択し（病院、ホテル、不動産屋、レストラン、コンビニ、居酒屋…など）、そこで使用される表現や語彙を挙げて準備を行った。演習当日は、受講者一人または二人と、日本語学習者（本校に在籍する初級学習者）一人でグループになり、各場面のスキットを作成した。スキット作成後は発表を行い、その後学習者・日本人受講者ともにフィードバックを行った。

<受講者のコメント>

- ・初級学習者と想定していても、実際の場面ではレベルに関係なく必要な表現がある。学習者は普段よく聞いてよく知っているなと思った。
- ・「学ぶ楽しさ」「わかって嬉しい気持ち」を体感したので、今後の活動に繋げたい。
- ・ボランティア活動をしていると色々悩む気持ちもあるが、他の教室の方と話をして刺激をもらったのがよかった。（講座全体を通しての感想）



○取組事例②

【第11回（子育てセミナー）】

「INCUL ママ's café」というタイトルで多文化子育てセミナーを行った。日本人一名とインド人一名がスピーカーとなり、パネルディスカッション形式で各国の子育ての違いや大変さについて語った後、グループに分かれテーマに沿ってグループトークを行った。参加者は外国人10名、日本人12名。

元々「子育てについて語る場がほしい」という声を、日本語教室に参加する学習者から多く受けていたため開講したが、各グループでは活発に意見交換が行われており、今後の開催を期待する声も多く聞かれた。

<参加者のコメント>

- ・こんな話を日本人ママさんと話す機会はなかったので、とても楽しかった。また開催してほしい。（外国人参加者より）
- ・子育てに関する感情的なことを話す機会がもてて良かった。（外国人参加者より）
- ・インドと日本の子育ての違い、日本の児童館などがいかに良いものか改めて考えることができてよかった。（日本人参加者より）
- ・皆の前で話すのは緊張したけど、楽しかった。自分の子育てを振り返る機会はあまりないので、面白かった。（スピーカーより）



(2) 目標の達成状況・成果

全11回の講座では、毎回終了時にアンケート（「振り返りシート」）の記入を行った。シートは運営側の内容確認の後、受講者に返却した。

<①ブラッシュアップ講座に関して>

今年度は地域のニーズに基づき、台東区で活動する団体の横のつながりを作ることを目的としていたため、広報活動を積極的に行った。具体的には、台東区で活動を行い連絡先を公開している全団体にメール及び電話で告知を行い、近隣区域（中央区、墨田区、文京区など）にも周知を行った。また、参加希望者の多かった団体には講座開講前に団体内アンケートを実施していただき、講座で学びたい内容の事前調査を行い、その結果を基に講座内容を決定した。実際の講座内では、お互いの活動内容を紹介したり、情報交換する機会を多く設けた。結果として、最終日に行ったアンケートから、「日々活動する中で疑問に感じていたことが少し解消できた」「他団体のことを知ることができてよかった」「刺激になった」「今後もこのつながりを何らかの形で継続したい」という意見が多く出た。団体間の連携という点では、達成できたように思う。

<②大学生対象講座に関して>

多文化共生や地域づくりに関心のある大学生の、今後の日本語ボランティア参加を促進することを目的としていたが、実際には既にボランティアを行っている学生も数名いた。受講した学生の属性は、(1)大学で国際関係や多文化共生社会に関して学んだ学生(2)国際交流イベント団体所属の学生が中心であった。講座内での印象としては、日本語ボランティアへの参加というより、今後の地域づくりに関心が強かったように思う。講座修了後、「就職先での外国人対応に活かしたい」「自分でイベントを計画したい」といった声が聞かれた。

<③子育てセミナーに関して>

「外国人がスピーカーになり主体となること」「同じ地域住民として、日本人と外国人が相互に学び合うこと」を目的としていたが、アンケートからはその目的が達成できたように思う。ただ、今回はスピーカーを日本人・外国人ともに一人ずつとしたため、「外国人が主体となる」機会であることを考えると、スピーカーの人数・国籍ともに数を少し増やすことも必要である。

(3) 今後の改善点について

・今回、3種の異なる講座を実施し、対象を明確に分けたことで、受講者の求める内容により近づけることができた。ただ、今回は①ブラッシュアップ講座のみ事前の内容アンケートを行ったため講座内容に反映できたものの、②大学生③子育てセミナーに関しては事前調査を実施しなかったため、できなかった。大学生受講者からは「最後に、実際に大学生とやさしい日本語を使って何かしたかった」という声が出た。そのため、今後は講座内容の検討段階から、十分に事前調査を行い、地域や受講対象のニーズを反映させる必要がある。

・各講座の対象を「活動中のボランティア」「大学生」「子育て中の女性」としたことで、それぞれに効果的な広報の方法が異なることがわかった。大学生に向けたメールやFacebookでの告知ではなかなか反応が得られず、受講者数が伸びなかった。Twitterなど、学生が多く利用するツールを活用した広報活動を行う必要がある。対象に応じた広報活動を検討していく予定である。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：台東区に住むお母さんのための日本語学習教材】			
目的・目標	・地域の日本語教室において、生活上の場面を題材として扱う際の学習の助けとなることを目的とした。 ・各場面を学習する際、指導者が動画を見せる、または同様のロールプレイを実演することで、学習者がどのようなテーマで学習が行われるのか理解しやすくなることを意図している。		
対象	・教材の使用は、地域の日本語教室で活動する指導者および補助者である。 ・日本語学習の対象は、台東区在住の、来日後間もない日本語学習者である。 ・主に子どもを持つ「お母さん」を対象にしているが、それ以外にも使用可能。ゼロ～初級程度の日本語学習経験者を想定しているが、それ以上の学習者にも表現や語彙を追加するなどして対応可能。		
教材の内容	・生活上の行為の中から、必要度の高い行為を取り上げ、各場面における会話例のスキットを撮影した。 ・教材内容は、各場面の「動画」、「会話を文字化したもの」、「会話で使用する文法・語彙の練習教材」から成る。 ・昨年度（平成27年度）に作成した動画教材を実際に教室活動で使用した成果を反映させ、教材の修正・改良を行った。		
実施期間	平成28年 5月 12日～平成 29年 3月 16日	成果物のリンク先	以下動画5本をYoutubeに掲載した。 ① https://www.youtube.com/watch?v=5W2lycP-Hu8 ② https://www.youtube.com/watch?v=FW_zQHpDIDg ③ https://www.youtube.com/watch?v=6jWsdB9ru_n0 ④ https://www.youtube.com/watch?v=nBnA1cbD98Q ⑤ https://www.youtube.com/watch?v=xViRLZWoaGl
作成教材の想定授業時間 コマ数と頁数	1回 1.5 時間 × 40 回 = 60 時間分	教材の頁数	今年度提出分：12ページ(概要・目次頁含めず) + 動画5本
カリキュラム案活用	・「生活上の行為の事例一覧」を使用して学習者のニーズ調査を行い、作成する項目を決めた。 ・「会話で使用する文法・語彙の練習教材」を作成する際、使用語彙及び文法項目の選択に活用した。		
教材の活用方法	①日本語教室の活動の冒頭に、その日扱うテーマ(場面)の会話例として、動画を例としたスキットを指導者・補助者が実演する。 補助者が複数いない場合は、動画をそのまま学習者に見せて使用する。 ②スキット(動画)を見て感じたことや疑問点、自分の経験を話す。 ③スクリプトを使用し、表現や語彙を学習する。 ④実際に、場面に合わせたロールプレイを学習者と指導者・補助者で行う。		
今後の活用の予定	・本校で、地域日本語教室のブラッシュアップセミナー等を開講する際、教材例として紹介する(数団体に既に紹介、配布済み)。 (Youtubeに掲載したため、自由に使用可)		



落とし物
(文書で) A: ああ、すみません。 Anoo, sumimasen. 警官: はい。 Hai. A: 財布を落としてしまったんですが… Saifu o otoshiteshimattandesuga... 警官: どこで落としたんですか。 Doko de otoshimashitaka. A: ちょっとわからないんです… Chotto wakaranaindesu... 警官: そうですか。どんな財布ですか。 Soudesuka. Donna saifu desuka. A: これぐらいの茶色い財布で、猫の絵が描いてあるんです。 Koregurai no chairoi saifu de, neko no e ga kaitearundesu. 警官: 中に何が入っていましたか。 Naka ni nani ga haite imashitaka. A: ええと…、写真と、在留カードとクレジットカードが入っています。 Eeto... okane to zairyuukaado to kurejitto kaado ga haite imasu. 警官: お金はいくらぐらい入っていましたか。 Okane wa ikura gurai haite imashitaka. A: 一万円ぐらいです。 Ichiman en gurai desu.

key フレーズ
①～を落としてしまったんですが…。 財布／かばん／携帯電話／クレジットカード
② (形容詞) + (名詞) 赤い／黒い／青い／黄色い／茶色い／灰色い／薄い／大きい／小さい
③～が入っています。 お金／クレジットカード／在留カード／キャッシュカード／免許証

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

日本語教育を専門とする日本語学校における「場所」「教材」「日本語教育の専門家」という特性を生かし、行政、近隣住民とつながりながら、地域に住む外国人が社会参加できるように必要な日本語、地域の情報が学べる日本語教室の設置、外国人住民が自己表現のできる外国人主導のセミナーの定期的な開催を目指す。また、「人材の養成・育成」においては、複数年、事業の受託の経験から、地域のニーズを生かした内容での講座の開催、若手の日本語支援者の育成のための講座など、次世代を見据えた研修の実施も目指す。「学習教材」においては、日本語教育の専門家の能力を生かし、生活者としての外国人のニーズに合う「学習教材」プログラムを作成していく。台東区には国際交流協会など生活する外国人のための機関がないため、当校がそれに近い形で、生活する外国人、近隣住民が集える場所作りを目指したい。

企画にあたっては、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案、ガイドブック、教材例集、能力評価、指導力評価を参考にし、地域に根ざした独自の、効果的・実践的なプログラムの完成を目指す。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・「地域に住む外国人住民の社会参加のための日本語・地域の情報が学べる日本語教室の設置」に関しては、別シート記入のアンケート結果（回答数18件）からも概ね達成できたように思う。「外国人、近隣住民が集う場づくり」という点でも、子育てセミナーを主な機会として実施することができた。ブラッシュアップセミナーでは、異なる団体（台東区、千代田区、文京区、港区から参加）に所属するボランティアが集い情報共有する場を設けることができた。この場を恒常的に作る事が現在の課題である。

・「外国人住民が自己表現のできる、外国人主導のセミナーの定期的な開催」という目標に関しては、今回は全体を通して1回のみの開催となったため、改善の余地がある。しかし、アンケートにもあるように、次回開催を希望する声が多いため、恒常的な開催に向けて計画している。

・実施した日本語教室内の個別学習においては、それぞれ「生活上の行為一覧」をベースに作成した「チェックリスト（翻訳付き）」をもとに学習を行っており、学習者は自分が学習したい項目を学び、チェックを入れることで、Can-doシラバスのように学習を行うことが可能となっている。学習者はそれぞれのページを、実際の生活場面でも使用しており、特に病院に持参して使用したという声が多くあった。

・日本語教室内でポートフォリオの概念のもと、教室開始時と修了時に同一シートに自らの言葉で学習に関する記述を行ったことは、非常に効果的だった。学習者自身からも「自分の変化がわかって嬉しい」との声があったが、指導者/補助者も同様であった。また、ブラッシュアップ講座・大学生向け講座でも同様に、「感じたこと」「考えたこと」を全講座を通して一枚のシートに記入を行ったことで、講座開始時と最終日での志向の変化を感じることができたようだった。週に一度だったり、数回限定だったり、という地域の日本語教育に関する学習の効果を検証する方法として、これは非常に効果的だった。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

・「日本語教育の実施」にも記載したように、行政との連携強化は目標達成ができなかった。今年度は「交流促進課」および「保健サービス課」との連携を図るのみだったので、今後はその他分野での連携を考えていかなければならない。しかし、今年度台東区区民課内に多文化共生係が新設されたため、今後は協働が期待できる。具体的には、台東区内のボランティア入門講座やブラッシュアップ講座を企画し、区内の現状とともに日本語教室での活動に関して情報を発信する人材研修等が実施できると考えている。

・上記行政に限らず、今回連携できた近隣の医療機関等、外国人対応や外国人サービスにおける情報共有ができる関係者とは、お互いが提供できる情報（本校であれば、日本語教育や、やさしい日本語に関するノウハウ）を共有し、よりよい地域づくりに向けた協働の体制を整備していきたい。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・今回、「日本語教育の実施」と「人材育成・研修」に関しては、全て本校Facebook上で告知・実施報告を行った。作成した教材はYoutubeに掲載した。しかし、そのみでは地域への発信としては不十分であるため、台東区の区報など地域の日本人住民に対しての情報提供を広く行っていく必要がある。

・告知や情報発信に関しては、対象を明確にした上で、効果的な方法（メール、電話、本校HP、Facebook、Twitter、区報、口コミ、各種ボランティア掲示板等）を分析し、必要に応じて選択を行うべきである。

(6) 改善点, 今後の課題について

・数年に渡って課題となっていた「地域リソースの活用」だが、よりアクティブな形での活用が必要だと考えている。現在まで「日本語教育」に関する部分のみで活動内容や協働の形を模索してきたが、そうした枠を越えた広範な地域づくりの取組を実施していかなければならない。そのため、地域の日本人住民との情報及び意見交換の場を設け、地域のニーズを改めて見直すということを行っていくべきだと考えている。

・本事業で「日本語教育の実施」「人材養成・研修」「教材作成」を継続的に行ってきたことで、日本語教育を専門的に行う機関に求められる役割が徐々に明確化してきた。現在は、「人材育成・研修」に関して最もニーズを感じている。外国人の日本語学習目的が多様化し、求められる日本語教育の形も多様化する中で、様々な人材育成のニーズに応えられるプログラム及びその実施機関が必要である。現在既に、東京都内外の自治体から人材研修の依頼が入っている。本来であれば、本事業で蓄積した成果をもって「地域リソースを活かした日本語教室の運営」「教材の開発」と併せて「生活者としての外国人」のための事業を継続していくべきだが、一度「人材育成」に特化した形で進める予定としている。

(7) その他参考資料